

平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【山口県周防大島町】

実施報告書
(概要版)

実施概要

山口県周防大島町について

周防大島町(すおうおおしまちょう)は、人口約18,300人、山口県東南部に位置し、瀬戸内海に浮かぶ島では3番目の面積を有しています。島と本土とは大島瀬戸を渡る大島大橋によって連結しています。

地勢は大半が、600m級の山々からなる山地が占め、海岸部に狭隘な丘陵地が広がる程度です。

年間平均気温15.5℃と比較的温暖な、青く澄みわたる瀬戸内の海と四季の彩り豊かな美しい自然を有する町です。



参照：周防大島町ホームページ

訓練概要

■訓練想定：11月5日の平日午前10時に、南海トラフを震源とするM8.0の大規模な地震が発生し、周防大島町内では震度6弱を記録。地震発生直後より、津波警報が発表され、周防大島町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対して、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■日	時：平成26年11月5日(水)	10:00～12:00
	シェイクアウト訓練 (振り返り含む)	10:00～10:20
	情報伝達訓練	10:00～11:00
	津波避難訓練	10:20～11:00
	物資配給訓練	10:40～10:55

■実施体制：主催／内閣府、山口県、周防大島町

■参加者：約250名

明新小学校、グループホームひまわり、グループホームこすもす、アマチュア無線大島クラブ、開作第二千歳会、砂堀自主防災会、周防大島町社会福祉協議会、柳井警察署

訓練報告

当日の訓練内容

10:00～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに重点を置き、訓練参加者全員が、J-ALERTによる緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一斉に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない。」を行った。また、終了後にそれぞれ振り返りを行った。

▼明新小学校



▼グループホーム



10:00～ 情報伝達訓練

協定を締結しているアマチュア無線大島クラブにより、小学校からの避難開始及び小学生の避難完了について、大島庁舎に設置された災害対策本部との情報の受送信を行った。

▼無線機器



▼避難完了報告



10:20～ 津波避難訓練

小学生は、柳井警察署の協力のもと、高台にある津波避難場所まで避難した。また、グループホームにおいては、車両による要配慮者の避難を行い、それぞれ避難要領の確認や防災意識の高揚を図った。

▼高台への避難



▼避難者の受入れ



10:40～ 物資配給訓練

津波避難場所(高台)及び大島庁舎(しまとぴあスカイセンター)において、周防大島町社会福祉協議会の協力のもと、物資(啓発用防災用品)の配給が行った。

▼小学生への配給



▼地域住民への配給



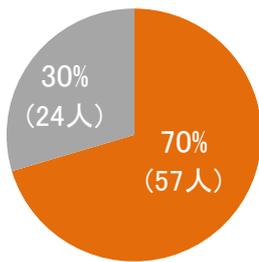
今後に向けた課題

アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取り組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

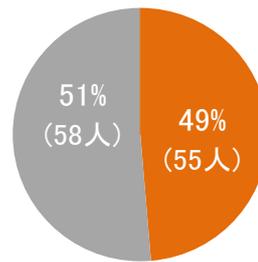
問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？

▼住民（小学生除く）（81人）



- ①知っている
- ②知らない

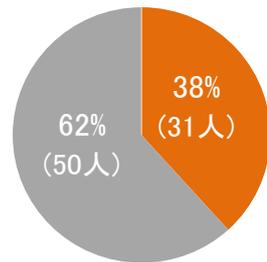
▼小学生（113人）



- ①知っている
- ②知らない

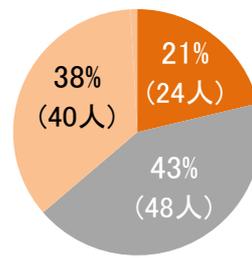
問 地震等に備えて、食料、水、非常用持出し袋等を準備していますか？

▼住民（小学生除く）（81人）



- ①している
- ②していない
- ③わからない

▼小学生（112人）



- ①している
- ②していない
- ③わからない

訓練の評価・課題等

訓練当日は晴天に恵まれ、小学生や地域の住民等を合わせて約250名の参加者があり、終始熱心かつ真剣に訓練に取り組んでいた。

訓練実施後、町長等による講評、職員等による所見、アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう、「課題と対策案」として整理した。この結果、スムーズな安全行動をとっていた、避難行動が迅速、適切に行われていたという評価の一方で、次のような課題が指摘された。

- 校内では、廊下の掲示板や靴箱などの固定が不十分な部分が見受けられたことから、転倒・落下・移動防止措置を徹底する必要がある。
- 小学校やグループホームでは、シェイクアウト後に施設内の安全確認が実施されていたが、より効率的に行う必要があることから、事前に役割分担を定め、安全確認の手順等を訓練することが大切である。
- 本訓練において確認できた避難経路上の危険箇所（落橋の危険性）等を再整理し、複数の避難経路を検討することも必要である。